

教科		理科		科目		生物基礎		単位数		2	
学年		2		科		普通		専攻・コース		中高一貫	
教科書		高等学校生物基礎(第一学習社)				副教材		セミナー生物基礎(第一学習者)			
学習到達目標		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方ができるようになる。									
評価の観点		①生物・生物現象に関心を持っているか。 ②授業に積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容に関する知識・技能が身についているか。									
期	月	学習内容・項目				学習のポイントと到達目標				備考	
前 期	前期 第1回 定期 試験	・皮膚の役割 ・自然免疫 ・獲得免疫				・異物が体内に侵入する前に皮膚や上皮において排除するしくみがあることを理解できる。 ・自然免疫の特徴を理解できる。 ・獲得免疫のうち、体液性免疫と細胞性免疫の働きと違いを理解できる。					
		・自律神経系 ・内分泌系 ・血糖量の調節				・器官の働きを調節する、交感神経と副交感神経の働きについて理解する。 ・体内環境の維持がホルモンによっても行われていることを理解できる。また、自律神経系との違いも理解できる。 ・血糖量が、自律神経系と内分泌系の働きによって調節されていることを理解できる。					
	前 期 末 試 験	・バイオーム ・植生の成り立ち				・地域ごとに動物、植物、菌類、細菌類も含めた生物全体の集団としてバイオームが形成されることを理解することができる。 ・植物はそれぞれの環境に適応した生活様式を発達させ、それを反映した生活形を示すことが理解できる。					

		<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな植生 ・植生の遷移 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオームを構成するさまざまな植生には、それぞれに特徴がみられることを理解できる。 ・遷移には始まりの条件によっていくつかのパターンがあることを理解できる。 	
期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
後 期	後 期 第 1 回 定 期 試 験	<ul style="list-style-type: none"> ・気候とバイオーム ・世界のバイオーム ・日本のバイオーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上にはさまざまなバイオームが存在することを理解できる。 ・世界の気候に応じて、多様なバイオームが存在することを理解できる。 ・日本にも気温に応じたバイオームが存在すること、日本の気温を変動させる要素について理解できる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・生態系の成り立ち ・生態系内の物質循環とエネルギーの流れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系は非生物的環境と生物的環境に分けられ、それらの間にある関係を理解することができる。 ・既習事項である、食物連鎖と生態系内の物質循環を関連付けて理解することができる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・生態系のバランス ・人間活動による生態系への影響 ・自然環境の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系を構成する生物の個体数や量が相互にバランスを取りつつ変動していることを理解できる。 ・人間活動が自然に与える影響を理解することができる。 ・自然環境の保全に向けた取り組みが国際的に行われていることを理解し、人間が生態系から受ける恩恵についても理解することができる。 	
	学 年 末 試 験			